

皆さんは、ウルトラセブンの名作「ねらわれた街」をご存知でしょうか。メトロン星人という侵略者が、人間の信頼関係を壊すことによって、地球を征服できると考えます。しかし、その野望は、ウルトラセブンのアイスラッガーとエメリウム光線によって、いとも簡単に打ち砕かれ、地球の平和は守られるという物語です。

たかが子供向けの特撮怪獣番組と、どうか、そう簡単に片付けなさい。特に、番組最後に語られるナレーション。そこには、深い深いメッセージが込められています。

「メトロン星人の地球侵略計画はこうして終わったのです。人間同士の信頼感を利用するとは恐るべき宇宙人です。でも、ご安心ください。このお話は、遠い遠い未来の物語なのです。え、なぜですって？我々人類は今、宇宙人に狙われるほどお互いを信頼していませんから。」

見事敵を倒したのに、どこかすっきりしない結末。我々人類の信頼関係を皮肉られたようなモヤモヤした妙な感覚。一体何が僕にそう感じさせるのか。自分に問いかけました。そして、あるとき気づいたのです。社会的な範囲で考えると、広がる経済格差、各地で起こるヘイトクライム、弾圧される民主化運動、そしてコロナ禍における自粛生活。個人レベルで考えても、繰り返されるSNS上のトラブル、根深いじめ、コミュニケーション不足による突発的な犯罪。この物語は数十年前のことだけでなく、現代社会を生きる我々への警鐘でもあるのだと。

僕自身は、信頼関係を築くには長い時間が必要。信頼関係は周りみんなと築くべきだということ。信頼関係を保つには自分の良いところを出し続けるのが必要条件だと、ずっとそのように思い、信頼関係を築き、保つことの難しさを感じていました。

ところが最近、僕一人で他中のメンバーと新しいバスケットボールチームを組み、大会に出場する経験を持ちました。思いもよらず、短期間で信頼関係を築くことができたのです。参加した大会で、県大会出場にあと一勝まで迫るといふ経験を通し、信頼関係は一層深まりました。これからもその関係を保っていく自信があります。それはきつと、メンバーのみんなと志が一緒だったから。それはきつと、自分と相手のプラス面もマイナス面も含めて、自分を、相手を信じてきたから。それはきつと、心の中にモヤモヤを溜め込まず、腹を割ってぶつけ合うことができたから。

今のコロナ禍という難局を乗り越えるには、もちろん「一致団結」、つまり「信頼すること」が絶対に必要です。しかしそれは、自分のことだけを主張したり、いつでも誰かとのつながりを求めたり、かっこいい部分だけでできるものではないはず。私たちが人間には、それぞれの生活の中で、様々な人間関係があり、様々なプラス面・

マイナス面を抱えながら生きています。それらの複雑な状況を互いに理解し合い、支え合いながらいきていくのが、望ましい人間関係であり、「本当に信頼すること」なのだ、僕は考えます。

一見デコボコなように見えて、実は一人一人の本当の部分でつながっている信頼関係。それを築くこと。それがこれからの僕の、僕たちの人間関係づくりの大きな目標です。

そしてそう、そんな「信頼関係」を築き保つことができれば、たとえ今、そして未来に、メトロン星人が侵略してきても、地球の人類は絶対に負けません。

僕たち一人一人が、ウルトラ警備隊の一員でもあり、ウルトラセブンでもあるのです。

守れ、僕らの幸せを。

「信じる力」でアタック！